



江戸図屏風・左隻(17世紀) 国立歴史民俗博物館蔵

序章

江戸の都市づくり

東京の成り立ち[1590年代-1860年代]

江戸は、全国から大名が集まり、総人口は100万人を超える世界有数の大都市でした。

政治の中心として栄えた江戸は、市街地に張り巡らされた水路網が人々の生活や経済活動を支える水都でもありました。

密集した市街地ならではの特性によって火事が頻発していたものの、

江戸の街は火災への対策を行いながら市街地を徐々に拡大していき、

東京の区部中心部などの原型になりました。

江戸時代に構築された都市の骨格は、幕末の動乱期を経て、明治時代に引き継がれていきます。

【江戸時代の主な出来事】

天正18(1590)年 ▶

徳川家康 江戸入府

慶長8(1603)年 ▶

徳川家康が征夷大将軍となり

江戸幕府を開府

寛永12(1635)年 ▶

参勤交代の確立

寛永13(1636)年頃 ▶

江戸城の外郭工事

明暦3(1657)年 ▶

明暦の大火

嘉永6(1853)年 ▶

ペリー艦隊浦賀に来航

慶応2(1867)年 ▶

大政奉還

明治元(1868)年 ▶

王政復古の号令(明治政府樹立)